

北海道夕張市の財政破綻と 財政再建計画の検討（Ⅱ）*

梅 原 英 治**

（目 次）

はじめに

第1章 夕張市の概要

第1節 夕張市の位置と地勢

第2節 夕張市の歴史——“純粹炭鉱都市”の形成・発展・没落——（以上前号）

第3節 夕張市の人口構造（本号）

第1章 夕張市の概要（続き）

第3節 夕張市の人口構造

以上の歴史を経た夕張市の現在の姿を人口構造と産業構造について整理してみよう。

まず、夕張市の人口構造については以下の特徴を指摘することができる。なお、本文中に明記していない限り、2005年10月国勢調査結果によっている。

（1）人口の減少とその加速化

第1は、人口の減少が止まらず、とくに「夕張ショック」以後は減少のスピードがさらに高まっていることである（表3）。

夕張市の人口は1960年の107,972人をピークに減り続け⁵⁴⁾、2005年には13,001人に減少し、1960年比わずか12.0%となり、その間に94,971人も減った。前回2000年国勢調査結果の14,791人からでも1,790人減っている。2000→05年の減少率12.11%は、道内でも高く（北海道平均は1.0%の減少、全国平均は0.7%の増加）、全国の市のなかでは歌志内市（12.12%）について第2位の減少率である（表4）。

「夕張ショック」以後、人口減少はスピードアップし、住民基本台帳ベースで見ると、2006年9月30日現在13,045人から2009年5月1日現在11,574人へ⁵⁵⁾、2年7ヵ月の間に

* 本稿は本学特別研究費（2007～08年度）にもとづく研究成果である。

** 本学経済学部教授

54) 住民登録人口（当時）では、1960年11万6908人がピーク（夕張市『平成18年版・夕張市の統計（第9号）』2008年、7ページ）。

55) 夕張市『平成18年版・夕張市の統計（第9号）』2008年、8ページ、同『広報ゆうばり』第1274号、

表3 夕張市の人口の推移

(単位:人,%)

年	人口総数	増減		備 考	
		増減数	増減率	調査時期	資 料
1891	307	—	—	12月31日	北海道戸口表
1895	2,388	2,081	677.9	12月31日	公簿調査による常住人口
1900	10,954	8,566	358.7	12月31日	公簿調査による常住人口
1905	11,632	678	6.2	12月31日	公簿調査による常住人口
1910	21,462	9,830	84.5	12月31日	公簿調査による常住人口
1915	32,538	11,076	51.6	12月31日	公簿調査による常住人口
1920	51,064	18,526	56.9	10月1日	国勢調査
1925	48,697	▲2,367	▲4.6	10月1日	国勢調査
1930	51,967	3,270	6.7	10月1日	国勢調査
1935	42,508	▲9,459	▲18.2	10月1日	国勢調査
1940	64,998	22,490	52.9	10月1日	国勢調査
1947	82,123	17,125	26.3	10月1日	臨時国勢調査
1950	99,530	17,407	21.2	10月1日	国勢調査
1955	107,332	7,802	7.8	10月1日	国勢調査
1960	107,972	640	0.6	10月1日	国勢調査
1965	85,071	▲22,901	▲21.2	10月1日	国勢調査
1970	69,871	▲15,200	▲17.9	10月1日	国勢調査
1975	50,131	▲19,740	▲28.3	10月1日	国勢調査
1980	41,715	▲8,416	▲16.8	10月1日	国勢調査
1985	31,665	▲10,050	▲24.1	10月1日	国勢調査
1990	20,969	▲10,696	▲33.8	10月1日	国勢調査
1995	17,116	▲3,853	▲18.4	10月1日	国勢調査
2000	14,791	▲2,325	▲13.6	10月1日	国勢調査
2005	13,001	▲1,790	▲12.1	10月1日	国勢調査

(出所) 夕張市『平成18年版・夕張市の統計書(第9号)』2008年, 6～8ページ, より作成。

表4 人口減少率の高い市(2000～05年)

(単位:%)

順位	都市名	人口減少率
1	北海道歌志内市	▲12.1
2	北海道夕張市	▲12.1
3	北海道三笠市	▲12.0
4	高知県室戸市	▲10.2
5	北海道芦別市	▲10.1
6	石川県珠洲市	▲9.1
7	北海道赤平市	▲8.6
8	徳島県三好市	▲8.6
9	長崎県上天草市	▲8.0
10	長崎県五島市	▲7.8

(出所) 総務省「平成19年度市町村決算状況調」より作成。

(注) 人口減少率は, 2000年10月国勢調査結果から2005年10月国勢調査結果の増減率。

表5 夕張市の人口動態

(単位：人)

年度	自然動態			社会動態			その他			差引 増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	増加	減少	増減	
2000	67	195	▲128	456	703	▲247	21	7	14	▲361
2001	56	197	▲141	531	676	▲145	12	6	6	▲280
2002	66	208	▲142	355	668	▲313	7	7	0	▲455
2003	48	230	▲182	366	685	▲319	10	1	9	▲492
2004	73	214	▲141	424	621	▲197	11	1	10	▲328
2005	56	226	▲170	361	581	▲220	10	9	1	▲389
2006	59	216	▲157	345	824	▲479	3	4	-1	▲637
2007	49	218	▲169	351	750	▲399	10	5	5	▲563
2008	42	220	▲178	339	601	▲262	10	5	5	▲435
平均	57	214	▲156	392	679	▲287	10	5	5	▲438

(出所) 1. 2000～05年度は、夕張市『平成18年版・夕張市の統計(第9号)』前掲、10ページ。

2. 2006～08年度は、北海道統計課のホームページ「住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態

(支庁市区町村別、3月末現在の男女別人口・世帯数、4月～3月の人口動態)」より。

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/ECC90EEF-A4E1-48D7-AA0F-C4C7A4463E9D/0/902brr06_t0103.xlshttp://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/8E1BD834-227E-4342-89B4-0D5268837D0F/0/902brr08_t02.xlshttp://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/BF15174C-C69A-4476-BE04-1433C835E989/0/902brr09_t01.xls

(注)「その他」の増加は住民票の職権登録、減少は職権削除等である。

1,471人、11.3%も減少し減少率は2000～05年の5年間の2倍近くになっている。

人口減少要因を人口動態統計で見ると、2000～08年の9年間の年平均人口減少数438人の内訳は、自然動態では出生57人、死亡214人で差引減少156人(35.6%)、社会動態では転入392人、転出679人で差引287人(65.5%)となっている(表5)。すなわち、人口の減少は、転入を上回る転出によって全体の3分の2程度、出生を上回る死亡によって3分の1程度が生じていることになる。

夕張市の人口は将来どのくらいになるのだろうか。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の市区町村別将来推計人口」(2008年12月推計)によれば、夕張市の人口は2035年には5,181人となり、対2005年比60.1%減の見込みである(表6)。

日本全体が「人口減少社会」になるとはいえ、全国では2005年1億2777万人から2035年1億1068万人へ13.5%減、北海道全体では563万人から441万人へ21.6%減なので、夕張市の減少幅は全国の4.5倍、北海道の3倍も大きい。しかも、この推計は2005年ベースなので、「夕張ショック」以降の人口減少の加速化は計算に含んでいない。

こうした人口の減少によって、夕張市は「市としての要件」をますます満たせなくなっている。地方自治法第8条第1項は、「市となるべき普通地方公共団体」が「具えていなければならない」要件として、①「人口五万以上を有すること」、②「当該普通地方公共団体の中心の市街地を形成している区域内に在る戸数が、全戸数の六割以上であること」、③「商工業その他の都市的業態に従事する者及びその者と同一世帯に属する者の数が、全人口の六割以上であること」、④「前各号に定めるものの外、当該都道府県の条例で定める都市的施設その他の都市としての要件を具えていること」の4点を挙げているが⁵⁶⁾、最

56) ④の「当該都道府県の条例で定める都市的施設その他の都市としての要件」について、北海道の

表 6 夕張市の将来人口推計

年	夕張市				(参考1) 全国				(参考2) 北海道			
	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
<人口(人)>												
2005年	13,001	1,022	6,819	5,160	2,384	127,767,994	17,585,016	84,421,991	25,760,987	11,639,368	5,627,737	1,207,174
2010年	11,351	810	5,620	4,922	2,713	127,176,445	16,479,479	81,284,868	29,412,098	14,222,213	5,513,158	1,354,390
2015年	9,898	640	4,606	4,652	2,820	125,430,217	14,841,478	76,807,285	33,781,454	16,452,270	5,359,697	1,551,585
2020年	8,515	503	3,780	4,232	2,631	122,734,996	13,201,022	73,634,986	35,898,988	18,736,672	5,165,785	1,664,586
2025年	7,245	405	3,254	3,585	2,417	119,269,828	11,955,514	70,960,349	36,353,965	21,667,283	4,937,453	1,677,505
2030年	6,133	329	2,808	2,995	2,164	115,223,669	11,149,855	67,403,978	36,669,836	22,658,757	4,684,420	1,669,391
2035年	5,181	266	2,383	2,532	1,795	110,679,406	10,511,645	62,918,599	37,249,162	22,352,136	3,627,756	1,649,635
<2005年を100とした指数>												
2005年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2010年	87.3	79.3	82.4	95.4	113.8	99.5	93.7	96.3	114.2	122.2	98.0	112.2
2015年	76.1	62.6	67.5	90.2	118.3	98.2	84.4	91.0	131.1	141.4	95.2	128.5
2020年	65.5	49.2	55.4	82.0	110.4	96.1	75.1	87.2	139.4	161.0	91.8	137.9
2025年	55.7	39.6	47.7	69.5	101.4	93.3	68.0	84.1	141.1	186.2	87.7	139.0
2030年	47.2	32.2	41.2	58.0	90.8	90.2	63.4	79.8	142.3	194.7	83.2	138.3
2035年	39.9	26.0	34.9	49.1	75.3	86.6	59.8	74.5	144.6	192.0	78.4	136.7
<構成比(%)>												
2005年	100.0	7.9	52.4	39.7	18.3	100.0	13.8	66.1	20.2	9.1	100.0	21.5
2010年	100.0	7.1	49.5	43.4	23.9	100.0	13.0	63.9	23.1	11.2	100.0	24.6
2015年	100.0	6.5	46.5	47.0	28.5	100.0	11.8	61.2	26.9	13.1	100.0	28.9
2020年	100.0	5.9	44.4	49.7	30.9	100.0	10.8	60.0	29.2	15.3	100.0	32.2
2025年	100.0	5.6	44.9	49.5	33.4	100.0	10.0	59.5	30.5	18.2	100.0	34.0
2030年	100.0	5.4	45.8	48.8	35.3	100.0	9.7	58.5	31.8	19.7	100.0	35.6
2035年	100.0	5.1	46.0	48.9	34.6	100.0	9.5	56.8	33.7	20.2	100.0	37.4

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所のホームページ「日本の市区町村別将来人口推計(平成20年12月推計)」より作成。

<http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j-shichoson08/kekka1/kekka1/kekka1-48.xls><http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j-shichoson08/kekka2/kekka2-1-48.xls><http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j-shichoson08/kekka2/kekka2-2-48.xls><http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j-shichoson08/kekka2/kekka2-3-48.xls><http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j-shichoson08/kekka2/kekka2-4-48.xls>

表 7 人口の少ない市（2005年）

（単位：人）

順位	都市名	人口
1	北海道歌志内市	5,221
2	北海道三笠市	11,927
3	北海道夕張市	13,001
4	北海道赤平市	14,401
5	高知県土佐清水市	17,281
6	高知県室戸市	17,490
7	石川県珠洲市	18,050
8	鹿児島県西之表市	18,198
9	北海道芦別市	18,899
10	北海道垂水市	18,928

（出所）表 4 と同じ。

（注）2005年10月国勢調査結果。

も重要とされる要件①の人口 5 万人以上について、夕張市の2005年の人口は13,001人であるから、その26%でしかない。住民基本台帳ベースでは1977年（48,663人）に 5 万人を割ったが、その後充足率がさらに下がってきた。

もっとも、いったん市になれば、上記の要件を充たせなくなっても、市のままでいることができる。これは、申請主義をとっていること、つまり市自らが町村になることを申請しなければならないからであるが、1つには、市から町村になることが「降格」のように思われ、その団体にとって名誉でないと思われること、もう1つには、行政的には身軽になれても、財源も減らされるので、町村になることに旨みがないことによる。

全国806市（2007年度）をみれば、人口 5 万人以下の市は248市、全体の30.8%もある。これを人口の少ない順にみると、第1位は北海道歌志内市（5,221人）、第2位は北海道三笠市（11,927人）で、夕張市は第3位に位置する（表7）。上位10市のうち半分が北海道である。2009年3月現在、北海道では35市のうち19市、過半数の54.3%が 5 万人を割っている（表8）。

「市としての要件に関する条例」（1948年3月17日条例第9号，2009年3月31日改正）は、(1)「税務署，公共職業安定所等の官署又は総合振興局，振興局等の北海道の公署が5以上設けられていること」，(2)「学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する高等学校が2以上設けられていること」，(3)「公私立の図書館，博物館，公会堂，公民館，公園等の文化施設を2以上有すること」，(4)「公営又は私営の上水道，下水道，軌道又はバス等の施設を1以上有すること」，(5)「銀行，会社及び工場の数並びにその規模が他の市に比べておおむねそんな色がないこと」，(6)「病院，診療所，劇場，映画館等の施設が相当数設けられていること」，(7)「町村住民の担税力及びその町村の財政状況が北海道内の他の市に比べてそんな色がないこと」，(8)「商工業その他の都市的業態に従事する者及びその者と同一世帯に属する者の数が最近5年間に於いて増加の傾向にあり，かつ，将来市として発展すべき要件を有すること」の8点を挙げている（『北海道例規類集（平成21年5月31日）』第3類第6章所収，北海道のホームページより http://www.reiki.pref.hokkaido.jp/cgi-bin/d1w_savvy/D1w_resdata.exe?PROCID=1123801691&CALLTYPE=1&RESNO=140&UKEY=1246749842140）。

表8 北海道における市の人口

(単位:人)

番号	指定地名	市制施行日	住民基本台帳2009年3月	50,000人からの差
1	札幌市	1922年8月1日	1,884,939	1,834,939
2	函館市		284,910	234,910
3	小樽市		135,500	85,500
4	室蘭市		96,050	46,050
5	旭川市		354,559	304,559
6	釧路市		187,569	137,569
7	帯広市	1933年4月1日	168,532	118,532
8	北見市	1942年6月10日	125,977	75,977
9	夕張市	1943年4月1日	11,633	▲ 38,367
10	岩見沢市		91,191	41,191
11	網走市	1947年2月11日	39,420	▲ 10,580
12	留萌市	1947年10月1日	25,459	▲ 24,541
13	苫小牧市	1948年4月1日	173,572	123,572
14	稚内市	1949年4月1日	39,527	▲ 10,473
15	美唄市	1950年4月1日	26,938	▲ 23,062
16	芦別市	1953年4月1日	17,610	▲ 32,390
17	江別市	1954年7月1日	122,344	72,344
18	赤平市		13,258	▲ 36,742
19	紋別市		25,248	▲ 24,752
20	士別市		22,666	▲ 27,334
21	名寄市	1956年4月1日	30,919	▲ 19,081
22	三笠市	1957年4月1日	11,015	▲ 38,985
23	根室市	1957年8月1日	30,209	▲ 19,791
24	千歳市	1958年7月1日	92,732	42,732
25	滝川市		44,005	▲ 5,995
26	砂川市		19,349	▲ 30,651
27	歌志内市		4,759	▲ 45,241
28	深川市	1963年5月1日	24,220	▲ 25,780
29	富良野市	1966年5月1日	24,488	▲ 25,512
30	登別市	1970年8月1日	52,572	2,572
31	恵庭市	1970年11月1日	68,483	18,483
32	伊達市	1972年4月1日	37,058	▲ 12,942
33	北広島市	1996年9月1日	60,802	10,802
34	石狩市		61,191	11,191
35	北斗市	2006年2月1日	49,371	▲ 629

(出所) 1. 市制施行日は、北海道例規類集「市設置」(大正11年7月26日告示第182号)より。
http://www.reiki.pref.hokkaido.jp/cgi-bin/d1w_savvy/D1W_resdata.exe?PROCID=1122729581&CALLTYPE=1&RESNO=142&UKEY=1246748821750
 2. 住民基本台帳人口は、北海道統計課のホームページより。
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/12B881B2-2CD5-4712-9A4A-8429921CEB7B/0/901brr0903.xls>

(2) 少子化と高齢化の高度な進展

第2は、少子化と高齢化が高度に進展していることである。

夕張市の人口を年齢別区分(3区分)で見ると、まず、年少人口(0～14歳)は1,022人、総人口で割った年少人口比率は7.9%で、全国平均(13.8%)より5.9%ポイント、北海道平均(12.8%)より4.9%ポイントも低く、全国の市のなかで最低である(表9)。

次に、生産年齢人口(15～64歳)は6,819人、総人口で割った生産年齢人口比率は52.4%で、全国平均(66.1%)より13.7%ポイント、北海道平均(65.8%)より13.4%ポイントも低く、全国の市のなかで下から3番目である(表10)。

さらに、老年人口(65歳以上)は5,160人、総人口で割った老年人口比率は39.7%で、全国平均(20.2%)より19.5%ポイント、北海道平均(21.5%)より18.2%ポイントも高

表9 年少人口の少ない市（2005年）

（単位：％）

順位	都市名	年少人口比率
1	北海道夕張市	7.86
2	北海道三笠市	8.17
3	北海道歌志内市	8.54
4	静岡県熱海市	9.34
5	和歌山県勝浦市	9.42
6	広島県江田島市	9.65
7	北海道赤平市	9.65
8	秋田県男鹿市	9.91
9	高知県室戸市	10.06
10	北海道芦別市	10.11

（出所）総務省統計局のホームページ「平成17年国勢調査都道府県・市区町村別主要統計表」より作成。

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Xlsdl.do?sinfid=000001082772>

（注）2005年10月国勢調査結果に基づく。

表10 生産年齢人口の少ない市（2005年）

（単位：％）

順位	都市名	生産年齢人口比率
1	大分県竹田市	51.56
2	石川県珠洲市	52.25
3	北海道夕張市	52.45
4	広島県庄原市	52.49
5	新潟県佐渡市	53.13
6	宮崎県串間市	53.13
7	大分県豊後大野市	53.17
8	熊本県牛深市	53.40
9	北海道三笠市	53.52
10	愛媛県西予市	53.65

（出所）表9と同じ。

（注）2005年10月国勢調査結果に基づく。

く、全国の市のなかで最高である（表11）。

そして、老年人口のうち75歳以上（いわゆる後期高齢者）人口は2,384人、総人口で割った後期高齢者人口比率は18.3％で、全国平均（9.1％）より9.2ポイント、北海道平均（9.7％）より8.6ポイントも高く、全国の市のなかでは第12位である。

将来推計人口の年齢別構成をみれば（前掲表6）、夕張市は2035年に年少人口比率が5.1％にまで下がり、生産年齢人口比率も46.0％（ボトムは2020年44.4％）に下落する一方、老年人口比率は48.9％（ピークは2020年49.7％）、後期高齢者人口比率は34.6％（ピークは2030年35.3％）にまで高まる。夕張市の少子化・高齢化はすでに現在でも高度な水準に達しているといえる。

こうした少子化・高齢化の高度な進展のもとで、夕張市は女性、とくに高齢女性の多い街になっている。夕張市の人口を性別で見ると、男性6,114人、女性6,887人で、女性の方が多い（表12）。女性が多いのは全国共通するが、総人口に対する女性の比率は夕張市

表11 老年人口の多い市（2005年）

（単位：％）

順位	都市名	老年人口比率
1	北海道夕張市	39.69
2	北海道三笠市	38.31
3	大分県竹田市	37.99
4	石川県珠洲市	37.34
5	北海道歌志内市	36.79
6	広島県庄原市	36.15
7	豊後大野市	35.18
8	新潟県佐渡市	34.89
9	北海道赤平市	34.64
10	高知県土佐清水市	34.63

（出所）表9と同じ。

（注）2005年10月国勢調査結果に基づく。

表12 夕張市の性别人口の推移と将来推計

（単位：人，％）

年	男		女		総人口に対する比率		性比
	人数	増減数	人数	増減数	男性	女性	
1900	4,622	—	6,332	—	42.2	57.8	73.0
1905	6,467	1,845	5,165	▲ 1,167	55.6	44.4	125.2
1910	11,987	5,520	9,475	4,310	55.9	44.1	126.5
1915	18,991	7,004	13,547	4,072	58.4	41.6	140.2
1920	27,340	8,349	23,724	10,177	53.5	46.5	115.2
1925	26,193	▲ 1,147	22,504	▲ 1,220	53.8	46.2	116.4
1930	27,266	1,073	24,701	2,197	52.5	47.5	110.4
1935	22,144	▲ 5,122	20,364	▲ 4,337	52.1	47.9	108.7
1940	35,983	13,839	29,015	8,651	55.4	44.6	124.0
1947	43,812	7,829	38,311	9,296	53.3	46.7	114.4
1950	52,337	8,525	47,193	8,882	52.6	47.4	110.9
1955	54,850	2,513	52,482	5,289	51.1	48.9	104.5
1960	54,892	42	53,080	598	50.8	49.2	103.4
1965	42,490	▲ 12,402	42,581	▲ 10,499	49.9	50.1	99.8
1970	34,682	▲ 7,808	35,189	▲ 7,392	49.6	50.4	98.6
1975	24,650	▲ 10,032	25,481	▲ 9,708	49.2	50.8	96.7
1980	20,715	▲ 3,935	21,000	▲ 4,481	49.7	50.3	98.6
1985	15,628	▲ 5,087	16,037	▲ 4,963	49.4	50.6	97.4
1990	10,078	▲ 5,550	10,891	▲ 5,146	48.1	51.9	92.5
1995	8,127	▲ 1,951	8,989	▲ 1,902	47.5	52.5	90.4
2000	6,952	▲ 1,175	7,839	▲ 1,150	47.0	53.0	88.7
2005	6,114	▲ 838	6,887	▲ 952	47.0	53.0	88.8
将来推計							
2010年	5,330	—	6,021	—	47.0	53.0	88.5
2015年	4,637	▲ 693	5,261	▲ 760	46.8	53.2	88.1
2020年	3,997	▲ 640	4,519	▲ 742	46.9	53.1	88.4
2025年	3,429	▲ 568	3,816	▲ 703	47.3	52.7	89.9
2030年	2,945	▲ 484	3,187	▲ 629	48.0	52.0	92.4
2035年	2,531	▲ 414	2,650	▲ 537	48.9	51.1	95.5

（出所）1. 1990～2005年までは、表3と同じ。

2. 将来推計は、国立社会保障・人口問題研究所のホームページ「日本の市区町村別将来人口推計（平成20年12月推計）」より作成。

<http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j/shichoson08/5-sai/shosai/shosai01.xls>

（注）1. 1900年の数値には疑問なしとしない（本文脚注57を参照されたい）。

2. 性比は、女性100人に対する男性の数。

表13 夕張市における性別人口の年齢別構成

(単位：%)

項目	男性	女性	男性比率	女性比率	性比
0～4歳	140	151	48.1	51.9	92.7
5～9歳	173	167	50.9	49.1	103.6
10～14歳	205	186	52.4	47.6	110.2
15～19歳	200	189	51.4	48.6	105.8
20～24歳	161	151	51.6	48.4	106.6
25～29歳	276	213	56.4	43.6	129.6
30～34歳	293	266	52.4	47.6	110.2
35～39歳	291	245	54.3	45.7	118.8
40～44歳	274	283	49.2	50.8	96.8
45～49歳	317	324	49.5	50.5	97.8
50～54歳	514	509	50.2	49.8	101.0
55～59歳	559	601	48.2	51.8	93.0
60～64歳	492	661	42.7	57.3	74.4
65～69歳	630	751	45.6	54.4	83.9
70～74歳	662	733	47.5	52.5	90.3
75～79歳	508	633	44.5	55.5	80.3
80～84歳	269	470	36.4	63.6	57.2
85歳～	150	354	29.8	70.2	42.4
合計	6,114	6,887	47.0	53.0	88.8

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所のホームページ「日本の市区町村別将来人口推計(平成20年12月推計)」より作成。

<http://www.ipss.go.jp/pp-shichoson/j/shichoson08/5-sai/shosai/shosai01.xls>

(注) 性比は、女性100人に対する男性の数。

53.0%で、全国平均51.2%より1.8ポイント、北海道平均51.5%より1.5ポイント高い(全国の市の中で最も高いのは北海道歌志内市で55.4%、夕張市は上から第112位)。

性別構成を年齢別に見ると、39歳(1966年生まれ)以下では、0～4歳(2001～05年生まれ)を除いて男性の比率が高い(表13)。とくに25～29歳(1976～80年生まれ)では男性56.4%、女性43.6%と男性の比率がかなり高くなっている。

他方、40歳(1965年生まれ)以上になると、50～54歳(1951～55年生まれ)を除いて女性の比率が高い。80～84歳(1921～25[大正10～14]年生まれ)では63.6%、85歳(1920[大正9]年生まれ)以上では70.2%が女性である。

「純粋炭鉱都市」は男の多い街であった。1915(大正4)年には人口の58.4%が男性であった(前掲表12)。1905(明治38)年から1960年まで⁵⁷⁾、男性の割合がづねに高く、兵役などで男が少なくなる戦時下の1940(昭和15)年でも人口の55.4%が男性であった⁵⁸⁾。

57) なお、1900(明治33)年の性別人口については、疑問なしとしない。この年の数値は男性4,622人、女性6,332人と女性の人数が多く、女性の割合が57.8%とかなり高くなっている。ただ、その前年の1899(明治32)年では、男性3,697人、女性3,225人と男性が多く、女性の人数が1900年と比べてほぼ半分であること、また、1年後の1901(明治34)年では、男性6,937人、女性4,039人と男性がかなり増え、女性がかかなり減少していることから判断して、なにかの間違いではないかと思われる。

なお、この当時の人口統計については、『夕張市史』に次のような記載がある——「明治30年、前年の2575人から860人に激減しているのは、何かの誤りではないかと考えられる。しかしこの年夕張砒は年間30万トンの石炭を生産しているが、道内工業の発達が遅れ消費が伸び悩んだ年であり、一方鉄道、道路などの発達による奥地の農地開拓に炭鉱地帯から人口が流れ出したとも考えられないこともない。」(夕張市史編さん委員会編『増補改訂・夕張市史(上)』前掲、17ページ。)

ところが、炭鉱の閉山による人口の流出が始まると、街から男性が出て行くため、1965年から女性の割合が高くなる。さらに少子化・高齢化の進展と男女間の平均寿命差⁵⁹⁾の影響が出てきて、女性の割合がさらに高くなる。人口に占める女性の比率は1965年から1985年までは50%台であったが、1990年51.9%、1995年52.5%、2005年53.0%とだんだん高くなっていく。

なお、将来人口推計によれば（前掲表12）、女性比率は2015年53.2%がピークになり、その後は低下すると予想されている（2035年51.1%）。現在男性が多い39歳以下の層が次第に年を取っていくからと思われるが、「夕張ショック」以後の人口流出ではその年代が含まれていることに留意する必要がある。

（3）世帯規模の縮小と高齢者世帯の増加——多発する高齢者の孤独死——

第3は、世帯規模が縮小するとともに、高齢者世帯が増加していることである。

58) なお、日中戦争および太平洋戦争の時期には、朝鮮人労働者などが強制連行され、夕張市内の炭鉱にも従事させられたが、人口統計との関係は不明である。「一般的な労働力不足のうえに深刻だったのは兵役に伴う熟練および青年労働力の逼迫だった。政府は昭和14年『国家総動員法』に基づいて124万人におよぶ労働動員計画を策定、そのなかに移住朝鮮人8万5000人が盛り込まれた。朝鮮人に対する戦時労働動員、いわゆる強制連行・労働のはじまりである。『集団募集』『官斡旋』『徴用』と形式をかえて実施された強制連行で送出された朝鮮人は全国で70万人余りと推定されるが、そのうち北海道には14万5000人前後が送出されたと考えられる。この人数は福岡県とともに全国で群を抜いている。強制連行された朝鮮人労働者は全道の炭鉱、鉱山、土木工事現場や工場で過酷な労働に従事した。19年以降、炭鉱での朝鮮人労働者の数は全炭鉱労働者の40%を超え、坑内夫の60%近くを占めていた。」（田端宏一ほか『北海道の歴史』前掲、292ページ。）

夕張炭鉱には、大正5年から朝鮮人労働者の入山記録があるが、「戦争が激しくなった昭和14年ころからは、国内の労働者不足を補うために強制連行し、過酷な坑内労働に従事させていた。どのやまでも日本人労働者の数を上回るほどであった」（夕張市史編さん委員会編『増補改訂・夕張市史（下）』前掲、531ページ。）

また、戦後直後の「華鮮人労働者の暴動」について——「そんなときに〔終戦と物資の不足……梅原〕炭鉱地帯では、戦争中に強制移入した華鮮人労働者（当時の表現——韓国・北朝鮮・中華人民共和国から強制的に連れてこられた労働者の呼称）が、終戦によって解放されると同時に、日ごろのうっ積した不満を爆発して暴徒化し、鉱業所の労働担当員などを中心に襲撃したり、物資の略奪をするなど、秩序は乱れ治安は極度に悪化した。当時夕張市には朝鮮人労働者約1万2千人、中国人労働者約2千人が在住していたと伝えられる。（公簿関係の資料は見あたらない）……これら外国人労働者は年内に、大半が祖国送還となるが、その間連合軍の駐屯により、暴動鎮圧の助けを籍りなければならなかった」（夕張市史編さん委員会編『増補改訂・夕張市史（上）』前掲、293ページ。）

ここには「公簿関係の資料は見あたらない」とあるので、こうした強制連行された人々の数（約14,000人）は住民統計上の人口数から切り離されているように思われる。

59) 日本人の平均寿命は、1950～52年では男性59.57歳、女性62.97歳で、その差3.40歳であったが、2006年では男性79.19歳、女性85.99歳で、その差6.80歳と開いている（厚生労働省大臣官房統計情報部「日本人の平均余命（平成19年簡易生命表）」2008年7月 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life07/01.html>、）。

表14 夕張市における世帯の特徴

項 目	夕張市		（参考1）全国		（参考2）北海道	
	人口・世帯	世帯数に占める割合	人口・世帯	世帯数に占める割合	人口・世帯	世帯数に占める割合
人口（人）①	13,001	—	127,767,994	—	5,627,737	—
一般世帯数（世帯，％）②	6,242	100.0	49,062,530	100.0	2,368,892	100.0
うち核家族世帯（世帯，％）	3,535	56.6	28,393,707	57.9	1,394,874	58.9
うち単独世帯（世帯，％）	2,269	36.4	14,457,083	29.5	767,626	32.4
1世帯当たり人口（人）①／②	2.08	—	2.60	—	2.38	—
65歳以上の高齢単身者世帯（世帯，％）	1,238	19.8	3,864,778	7.9	212,086	9.0
65歳以上の親族のいる世帯（世帯，％）	3,481	55.8	17,204,473	35.1	793,637	33.5
高齢夫婦世帯（世帯，％）	1,322	21.2	4,487,042	9.1	263,946	11.1

（出所）表9と同じ。

（注）高齢夫婦世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の1組の一般世帯のこと。

表15 1世帯当たり人口の少ない市（2005年）

（単位：人）

順位	都市名	1世帯当たり人口
1	東京都武蔵野市	1.98
2	東京都狛江市	2.07
3	北海道夕張市	2.08
4	東京都調布市	2.13
5	静岡県熱海市	2.14
6	北海道室蘭市	2.18
7	東京都国立市	2.19
8	北海道三笠市	2.21
9	東京都国分寺市	2.21
10	東京都小金井市	2.22

（出所）表9と同じ。

2005年の夕張市の世帯数は6,242世帯で⁶⁰⁾、1世帯当たり人口は平均2.08人であり、全国平均は2.60人、北海道平均は2.38人と比べてかなり少ない（表14）。1世帯当たり人口の少なさでは、全国の市のなかで、第1位の東京都武蔵野市1.98人、第2位の東京都狛江市2.07人に次いで第3位である（表15）。

ただし、大都市圏にある武蔵野市や狛江市とはちがって、夕張市の世帯規模の小ささは前述の少子化・高齢化の高度な進展と密接にかかわる。すなわち、高齢夫婦世帯と高齢単身者世帯が極めて多いことによる（武蔵野市や狛江市では、高齢単身者世帯でない単独世帯が多い）。

夕張市には、2005年で高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上）が1,322世帯、全体の21.2%もあり、全国平均9.1%、北海道平均11.1%と比べてはるかに高い。全国の市のなかで、高齢夫婦世帯の多さでは第1位である（表16）。

また、高齢単身者世帯が1,238世帯、全体の19.8%もあり、全国平均7.9%より11.9%ポ

60) 総務省統計局「都道府県・市区町村別主要統計表（平成17年）」（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001007609&cycode=0>）より。なお、夕張市『平成18年版・夕張市の統計（第9号）』（前掲）では、世帯数（国勢調査）が6,275世帯となっているが、ここでは総務省統計局の数字を用いている（人口はどちらも同じ）。

表16 高齢夫婦世帯の多い市（2005年）

（単位：％）

順位	市名	全世帯数に占める高齢夫婦世帯の比率
1	北海道夕張市	21.18
2	鹿児島県曾於市	19.73
3	北海道三笠市	19.12
4	大分県竹田市	18.93
5	宮崎県串間市	18.68
6	北海道赤平市	18.52
7	北海道芦別市	18.47
8	愛媛県西予市	18.11
9	大分県豊後大野市	17.88
10	宮崎県えびの市	17.87

（出所）表9と同じ。

（注）高齢夫婦世帯とは、65歳以上の夫と60歳以上の妻の夫婦だけの世帯。

表17 高齢単身者世帯の多い市（2005年）

（単位：％）

順位	都市名	全世帯数に占める高齢単身者世帯の比率
1	北海道夕張市	19.83
2	高知県土佐清水市	19.45
3	三重県熊野市	19.33
4	北海道歌志内市	19.19
5	北海道三笠市	19.14
6	静岡県熱海市	18.61
7	鹿児島県大口市	18.15
8	広島県江田島市	18.06
9	長崎県五島市	17.95
10	高知県室戸市	17.70

（出所）表9と同じ。

（注）高齢単身者世帯とは、65歳以上の単身者の世帯。

イント、北海道平均9.0%より10.8%ポイントも高い。これもまた全国の市のなかで第1位である（表17）。

「はじめに」（1）で述べたように、夕張市では高齢者の孤独死が多く、年間15～16件ある。孤独死については法的な定義がなく、統計も整備されていないので比較が難しいが、「富山県警がまとめた06年の県内件数は150件で、人口1万人当たり約1.4人。単純比較はできないが、夕張はその10倍だ」という⁶¹⁾。高齢単身世帯の多さ、そして次に述べる人口僅少地域の増大が関係する。

純粋炭鉱都市として形成・発展した夕張市では、炭鉱労働者や商店などの居住環境が次第に整備されるにつれて、世帯規模が増大していった（表18）。1910年1世帯当たり平均3.12人だったのが、1920年には4人台、1930年には5人台に乗り、1940年には5.61人まで増えた。その後、1955年まで5人台を維持しながら逡減していくが、1960年以降、閉山に伴う人口流出とともに世帯規模が急速に縮小し、1960年代に4人台、1970年代に3人台、1980年代に2人台となり、2005年はかろうじて2人台にある。なお、2009年5月1日現在

61) 北海道新聞取材班『追跡・「夕張」問題』前掲、32ページ。

表18 夕張市の世帯数の推移

(単位：%)

年	世帯数	増減数	1世帯当たり人口
1891	69	—	4.4
1895	1,118	1,049	2.1
1900	1,527	409	7.2
1905	2,798	1,271	4.2
1910	6,875	4,077	3.1
1915	8,482	1,607	3.8
1920	10,840	2,358	4.7
1925	9,855	▲ 985	4.9
1930	10,271	416	5.1
1935	8,109	▲ 2,162	5.2
1940	11,582	3,473	5.6
1947	15,141	3,559	5.4
1950	19,359	4,218	5.1
1955	21,218	1,859	5.1
1960	23,042	1,824	4.7
1965	21,045	▲ 1,997	4.0
1970	19,862	▲ 1,183	3.5
1975	15,944	▲ 3,918	3.1
1980	14,992	▲ 952	2.8
1985	12,152	▲ 2,840	2.6
1990	8,791	▲ 3,361	2.4
1995	7,593	▲ 1,198	2.3
2000	6,878	▲ 715	2.2
2005	6,275	▲ 603	2.1

(出所) 表3と同じ。

では、人口11,574人、世帯数6,198世帯で、1世帯当たり人口は1.87人と1人台に入っている⁶²⁾。

(4) 人口ゼロ地域の増加

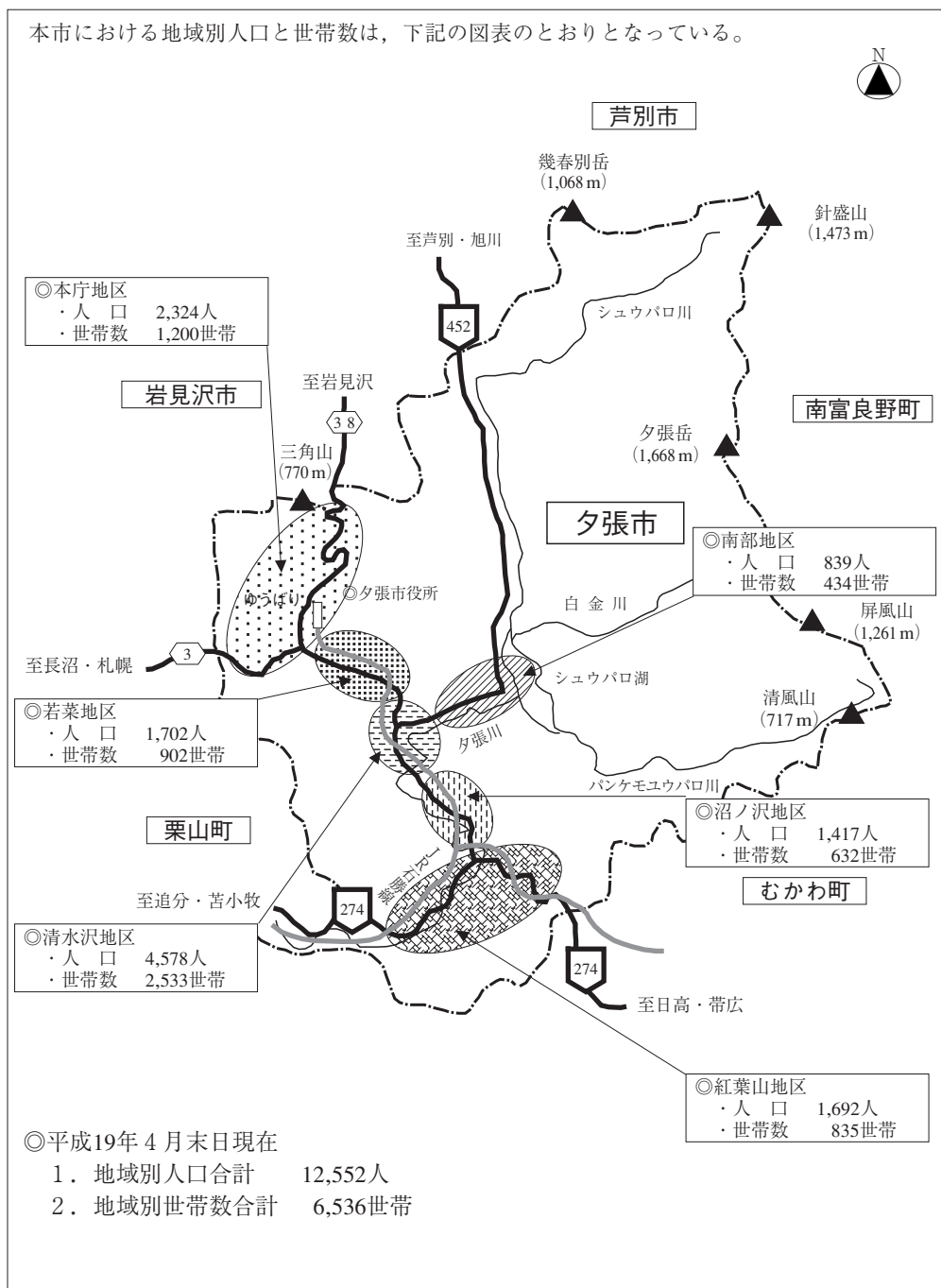
第4は、人口の減少によって、人口ゼロ地域が増大していることである。

夕張市の行政区は現在、本庁、若菜、清水沢、南部、沼ノ沢、紅葉山の6つの地区に分かれている(図2)。いずれも炭鉱開発と関わりをもって形成されてきた。

本庁地区は福住・住初・高松・社光・本町・昭和・朝日町・末広・鹿ノ谷・富野からなる。炭鉱開発の起点となった地域であり、市役所・警察署などの公共施設と本町商店街がある。若菜地区は常磐・日吉・若菜・平和・千代田からなり、谷新夕張炭山第2坑の若鍋坑から由来する。清水沢地区は清水沢と南清水沢からなり、三菱の北部大夕張炭坑の開発(鹿島地区)とともに、鉄道の分岐点として発達した。北炭夕張新鉱の炭住街であった。南部地区は南部12町からなり、三菱南大夕張炭鉱の労働者街であった。沼ノ沢地区は沼ノ沢と真谷地とからなり、北炭真谷地炭鉱の労働者街であった。紅葉山地区は紅葉山・楓・登川・滝ノ上からなり、北炭楓炭鉱、登川炭鉱があった。

62) 夕張市『広報ゆうばり』第1274号、前掲、8ページ。

図2 夕張市の行政区の状況



(出所) 夕張市「平成19年度夕張の概況説明」第9回地方分権改革推進委員会提出資料,
2007年6月15日, 3ページ。

<http://www.cao.go.jp/bunken-kaikaku/iinkai/kaisai/dai09/09shiryou1.pdf>

表19 夕張市の行政区別人口の推移

(単位：人)

年	本庁	若菜	清水沢	南部	鹿島	沼ノ沢	紅葉山	合計
1960①	48,169	14,682	13,257		25,516	7,877	7,274	116,775
構成比 (%)	41.2	12.6	11.4		21.9	6.7	6.2	100.0
1965	42,612	12,946	13,057	4,036	13,676	6,365	5,079	97,771
1970	25,169	10,564	9,938	7,241	11,381	5,612	4,302	74,207
1975	13,321	7,381	11,237	8,711	3,583	4,536	3,997	52,766
1980	8,874	5,042	12,609	7,144	2,114	4,255	3,608	43,646
1985	5,745	3,549	7,774	7,344	1,306	3,766	3,366	32,850
1990	4,861	2,691	7,203	3,719	637	2,325	2,294	23,730
1995	3,758	2,337	6,238	1,336	513	1,871	2,070	18,123
2000	3,013	2,119	5,629	1,133	3	1,677	1,964	15,538
2005	2,580	1,894	4,940	928		1,503	1,770	13,615
2006	2,491	1,848	4,852	898		1,462	1,717	13,268
2007	2,337	1,716	4,612	857		1,421	1,688	12,631
2008②	2,209	1,629	4,383	783		1,382	1,682	12,068
構成比 (%)	18.3	13.5	36.3	6.5		11.5	13.9	100.0
②/① (%)	4.6	11.1	33.1	19.4		17.5	23.1	10.3

(出所) 夕張市「行政区・年度別住民登録人口」より作成。

(注) 1. 各年 3 月末現在。

2. 構成比は2008年。

3. 1960年と2008年の比率は、南部のみ1965年と2008年の比率。

4. 本庁地区の人口には丁未地区の人口を含む。

地区別人口をみると、2008年 3 月末では、本庁地区が2,209人で全体の18.3%、若菜地区が1,629人で13.5%、清水沢地区が4,383人で36.3%、南部地区が783人で6.5%、沼ノ沢地区が1,382人で11.5%、紅葉山地区が1,682人で13.9%となっており、清水沢に市内の 3 分の 1 以上の人たちが住んでいる（表19）。

炭鉱街の特徴は、炭鉱の開発・閉山や景気の循環によって、人口が大きく変動することである。1960年と比較すると、1960年に25,516人もの人いた鹿島地区はゼロとなった。本庁地区は1960年には48,169人、41.2%の人が住み、夕張市の中心をなしていたが、いまや往時の 5 %以下に減少している。この本庁地区の上に丁未地区があったが、ここも人口がゼロである。

さらに各地区の内部を見ると、人口がゼロまたはわずかになった地域が続出しており、本庁地区では福住・高松が人口ゼロ、住初と鹿の谷 2 丁目が 1 ケタ台、清水沢地区では清湖町が 1 ケタ、南部地区では北夕町がゼロ、菊水町と青葉町が 1 ケタ台、紅葉山地区では登川が 1 ケタ台となっている（表20）。

2008年 1 年間で人口が20人以上減った地域には、本庁地区の本町（26人）、若菜地区の平和（25人）、千代田（75人）、清水沢地区の南清水沢（42人）、清栄町（23人）、清陵町（74人）、沼ノ沢地区の沼ノ沢（35人）がある（表21）。減少率が10%を超えた地域には、本庁地区の旭町（10.9%、15人）、若菜地区の千代田（13.2%、75人）、南部地区の幌南町（16.7%、9人）、新光町（10.7%、6人）、東町（12.8%、11人）、菊水町（100%、2人）があり、菊水町は人口がゼロになった。

年齢別に見ると、少子化・高齢化が著しく進行している地域がある（表22-1、22-2、22-3）。年少人口比率が 5 %を割り、子どもが非常に少ない地域には、本庁地区の杜光

(2.6%), 本町 (2.1%), 昭和 (2.4%), 末広 (3.9%), 若菜地区の若菜 (4.8%), 沼ノ沢地区の真谷地 (3.9%), 紅葉山地区の楓 (3.5%) がある。

生産年齢人口比率が30%を割り、働き手が非常に少ない地域には、若菜地区の日吉 (24.0%), 紅葉山地区の登川 (18.2%) がある。

高齢人口比率が50%を超え、住民の半分以上がお年寄りという地域には、本庁地区の社光 (51.3%), 末広 (52.5%), 若菜地区の日吉 (70.5%), 沼ノ沢地区の真谷地 (50.2%), 紅葉山地区の楓 (64.7%), 登川 (72.7%) がある。とくに若菜地区の日吉は、後期高齢者人口比率 (総人口に占める75歳以上人口の比率) が58%で、住民の6割近くが75歳以上である。

このように、人口ゼロや僅少な地域が増大するとともに、少子化・高齢化が高度に進展して、人口の再生産はおろか、維持困難な地域が増え、地域の解体が進行しつつある。

(続く)

表20 夕張市の行政区別人口

(単位：人，世帯)

行政区名	地域名	人口（2005年10月）			世帯数	(参考) 人口 1975年10月
		総数	男	女		
丁未	丁未	—	—	—	—	169
	錦	—	—	—	—	145
	小松	—	—	—	—	127
	富岡	—	—	—	—	220
本庁	福住	—	—	—	—	889
	住初	4	2	2	1	366
	高松	—	—	—	—	1,551
	社光	74	28	46	31	1,153
	本町	469	206	263	230	2,075
	1丁目	145	67	78	76	
	2丁目	33	13	20	19	
	3丁目	94	42	52	44	
	4丁目	51	21	30	20	
	5丁目	46	20	26	19	
	6丁目	100	43	57	52	
	昭和	82	38	44	48	466
	旭町	189	101	88	94	687
	末広	737	327	410	401	1,931
	1丁目	194	98	96	95	
	2丁目	543	229	314	306	
	鹿の谷	748	370	378	361	3,661
	山手町	120	72	48	66	
	1丁目	152	68	84	74	
	2丁目	17	8	9	7	
	3丁目	414	199	215	189	
	東丘町	45	23	22	25	
	富野	130	61	69	34	187
若菜	常盤	242	123	119	100	759
	日吉	200	67	133	89	715
	若菜	269	125	144	139	1,351
	平和	451	210	241	223	1,584
	千代田	709	325	384	376	1,738
清水沢	清水沢	2,943	1,384	1,559	1,528	8,159
	1丁目	179	78	101	74	
	2丁目	178	78	100	95	
	3丁目	105	52	53	58	
	清栄町	505	248	257	237	
	宮前町	687	305	382	381	
	清陵町	1,278	617	661	677	
	清湖町	11	6	5	6	2,915
	南清水沢	1,754	782	972	847	
	1丁目	316	132	184	102	
	2丁目	71	32	39	38	
	3丁目	498	225	273	245	
	4丁目	869	393	476	462	
南部	南部	904	460	444	459	8,218
	住の江町	81	46	35	49	
	岳見町	136	69	67	64	
	幌南町	50	19	31	29	
	遠幌町	83	38	45	39	
	夕南町	188	98	90	85	
	若美町	122	62	60	57	
	大宮町	47	21	26	26	
	新光町	64	35	29	39	
	東町	106	59	47	61	
	菊水町	2	1	1	1	
	青葉町	25	12	13	9	
	北夕町	—	—	—	—	

鹿島	鹿島	—	—	—	—	2,971
	明石町	—	—	—	—	
	千年町	—	—	—	—	
	錦町	—	—	—	—	
	宝町	—	—	—	—	
	富士見町	—	—	—	—	
	緑町	—	—	—	—	
	栄町	—	—	—	—	
	代々木町	—	—	—	—	
	北栄町	—	—	—	—	
	白金	—	—	—	—	
沼ノ沢	沼ノ沢	1,096	522	574	443	1,663
	真谷地	309	150	159	157	2,655
紅葉山	紅葉山	1,337	668	669	558	1,743
	楓	173	79	94	91	979
	登川	11	5	6	7	663
	滝ノ上	170	81	89	58	401
合計		13,001	6,114	6,887	6,275	50,131

- (出所) 1. 1975年の人口は、夕張市史編さん委員会編『増補改訂・夕張市史(上)』前掲、24～25ページ、表4より。(なお、原表の「54.10.1」は昭和50年10月1日の間違い)。
 2. 2005年の人口・世帯数は、北海道統計課「平成17年国勢調査・町丁・字等別男女別人口及び世帯数」空知支所より。
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/29A806B0-4F60-4C76-8016-B15189D2AC1D/0/001ppc05fb_t0506.xls

表21 2008年における夕張市の行政区別人口の変化

(単位：人，%)

行政区名	地域名	2007年12月末		2008年12月末		増減数	増減率
		人数	構成比	人数	構成比		
本庁	富岡	0	0.0	0	0.0	0	—
	福住	0	0.0	0	0.0	0	—
	住初	4	0.0	4	0.0	0	0.0
	高松	0	0.0	0	0.0	0	—
	社光	40	0.3	41	0.3	1	2.5
	本町	417	3.4	391	3.3	▲ 26	▲ 6.2
	1丁目	130	1.1	121	1.0	▲ 9	▲ 6.9
	2丁目	37	0.3	34	0.3	▲ 3	▲ 8.1
	3丁目	86	0.7	82	0.7	▲ 4	▲ 4.7
	4丁目	42	0.3	38	0.3	▲ 4	▲ 9.5
	5丁目	45	0.4	43	0.4	▲ 2	▲ 4.4
	6丁目	77	0.6	73	0.6	▲ 4	▲ 5.2
	昭和	74	0.6	73	0.6	▲ 1	▲ 1.4
	旭町	137	1.1	122	1.0	▲ 15	▲ 10.9
	末広	738	6.1	739	6.3	1	0.1
	1丁目	197	1.6	191	1.6	▲ 6	▲ 3.0
	2丁目	541	4.4	548	4.7	7	1.3
	鹿の谷	696	5.7	679	5.8	▲ 17	▲ 2.4
	1丁目	148	1.2	146	1.2	▲ 2	▲ 1.4
	2丁目	25	0.2	29	0.2	4	16.0
	3丁目	370	3.0	364	3.1	▲ 6	▲ 1.6
	東丘町	45	0.4	41	0.3	▲ 4	▲ 8.9
	山手町	108	0.9	99	0.8	▲ 9	▲ 8.3
	富野	131	1.1	132	1.1	1	0.8
	本庁合計	2,237	18.3	2,181	18.6	▲ 56	▲ 2.5
若菜	常盤	256	2.1	265	2.3	9	3.5
	日吉	127	1.0	123	1.0	▲ 4	▲ 3.1
	若菜	281	2.3	277	2.4	▲ 4	▲ 1.4
	平和	421	3.5	396	3.4	▲ 25	▲ 5.9
	千代田	568	4.7	493	4.2	▲ 75	▲ 13.2
	若菜合計	1,653	13.6	1,554	13.2	▲ 99	▲ 6.0

清水沢	清水沢	461	3.8	453	3.9	▲ 8	▲ 1.7
	1丁目	170	1.4	170	1.4	0	0.0
	2丁目	184	1.5	181	1.5	▲ 3	▲ 1.6
	3丁目	107	0.9	102	0.9	▲ 5	▲ 4.7
	南清水沢	1,640	13.4	1,598	13.6	▲ 42	▲ 2.6
	1丁目	315	2.6	299	2.5	▲ 16	▲ 5.1
	2丁目	60	0.5	58	0.5	▲ 2	▲ 3.3
	3丁目	473	3.9	464	4.0	▲ 9	▲ 1.9
	4丁目	792	6.5	777	6.6	▲ 15	▲ 1.9
	清栄町	497	4.1	474	4.0	▲ 23	▲ 4.6
	宮前町	707	5.8	690	5.9	▲ 17	▲ 2.4
	清陵町	1,117	9.2	1,043	8.9	▲ 74	▲ 6.6
	清湖町	8	0.1	8	0.1	0	0.0
南部	清水沢合計	4,430	36.3	4,266	36.3	▲ 164	▲ 3.7
	住の江町	58	0.5	55	0.5	▲ 3	▲ 5.2
	岳見町	121	1.0	111	0.9	▲ 10	▲ 8.3
	幌南町	54	0.4	45	0.4	▲ 9	▲ 16.7
	遠幌町	86	0.7	85	0.7	▲ 1	▲ 1.2
	夕南町	143	1.2	132	1.1	▲ 11	▲ 7.7
	若美町	121	1.0	109	0.9	▲ 12	▲ 9.9
	大宮町	48	0.4	48	0.4	0	0.0
	新光町	56	0.5	50	0.4	▲ 6	▲ 10.7
	東町	86	0.7	75	0.6	▲ 11	▲ 12.8
	菊水町	2	0.0	0	0.0	▲ 2	▲ 100.0
	青葉町	23	0.2	23	0.2	0	0.0
	南部合計	798	6.5	733	6.2	▲ 65	▲ 8.1
鹿島	明石町	0	0.0	0	0.0	0	—
	千年町	0	0.0	0	0.0	0	—
	錦町	0	0.0	0	0.0	0	—
	宝町	0	0.0	0	0.0	0	—
	富士見町	0	0.0	0	0.0	0	—
	緑町	0	0.0	0	0.0	0	—
	栄町	0	0.0	0	0.0	0	—
	代々木町	0	0.0	0	0.0	0	—
	北栄町	0	0.0	0	0.0	0	—
	白金	0	0.0	0	0.0	0	—
	鹿島合計	0	0.0	0	0.0	0	—
沼ノ沢	沼ノ沢	1,110	9.1	1,075	9.2	▲ 35	▲ 3.2
	真谷地	291	2.4	280	2.4	▲ 11	▲ 3.8
	1区	0	0.0	0	0.0	0	—
	2区	0	0.0	0	0.0	0	—
	3区	0	0.0	0	0.0	0	—
	4区	0	0.0	0	0.0	0	—
	5区	1	0.0	1	0.0	0	0.0
	6区	231	1.9	220	1.9	▲ 11	▲ 4.8
	市街	59	0.5	59	0.5	0	0.0
	沼ノ沢合計	1,401	11.5	1,355	11.5	▲ 46	▲ 3.3
紅葉山	紅葉山	1,339	11.0	1,325	11.3	▲ 14	▲ 1.0
	楓	135	1.1	122	1.0	▲ 13	▲ 9.6
	登川	39	0.3	38	0.3	▲ 1	▲ 2.6
	滝ノ上	166	1.4	165	1.4	▲ 1	▲ 0.6
	紅葉山合計	1,679	13.8	1,650	14.1	▲ 29	▲ 1.7
総 数		12,198	100.0	11,739	100.0	▲ 459	▲ 3.8

（出所）夕張市「地域別・住民登録人口」平成20年1月および平成20年12月より作成。

表22-1 夕張市の行政区別・年齢別人口(1) 人数(人)

行政区名	地域名	総数	1～4歳	5～9歳	10～14歳	0～14歳計	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	15～64歳計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65歳以上計	うち75歳以上計
本庁	福住																								
	高松																								
	社光	78			2	2				2		2	4	5	8	7	36	7	8	9	5	3	8	40	25
	本町	469	7	7	10	24	11	10	8	12	19	13	18	41	52	55	239	48	50	38	40	22	8	206	108
	昭和	822	2	3	4	6	3	3	1	6	10	6	4	46	11	7	7	3	3	3	34	16			
	旭町	189	10	2	5	17	3	7	17	9	11	11	7	23	24	16	128	11	10	10	6	5	2	44	23
	末広	737	10	10	9	29	7	16	30	18	17	26	25	57	63	62	321	81	97	118	61	23	7	387	209
	鹿の谷	748	22	27	26	75	20	14	26	31	35	37	46	58	71	63	401	74	97	55	28	9	9	272	101
	富野	130	12	7	2	21	1	6	16	7	2	6	6	16	12	9	81	5	2	12	7	1	1	28	21
	本片合計	2,433	61	53	56	170	45	60	108	82	87	96	112	210	236	216	1,252	237	271	249	150	66	38	1,011	503
若菜	常盤	242	4	12	15	31	13	2	7	14	10	16	22	33	14	18	149	16	19	15	9	2	1	62	27
	日吉	200	1	2	8	11	3	2	7	1	4	11	5	3	5	7	48	13	12	30	35	30	21	141	116
	若菜	269	3	6	4	13	10	5	8	9	17	6	10	17	28	36	146	33	23	29	18	4	3	110	54
	平和	451	16	16	14	46	18	10	18	35	21	20	25	23	32	37	239	47	47	43	18	8	3	166	72
	千代田	709	27	20	16	63	48	24	42	63	36	28	50	64	62	41	458	33	51	56	42	4	2	188	104
清水沢	若菜合計	1,871	51	56	57	164	92	43	82	122	88	81	112	140	141	139	1,040	142	152	173	122	48	30	667	373
	清水沢	2,943	51	80	87	218	84	71	91	114	131	128	149	205	238	264	1,475	381	401	270	143	36	19	1,250	468
	南清水沢	1,754	35	38	64	137	46	53	63	66	58	68	88	156	172	170	940	153	151	143	110	79	41	677	373
	清水沢合計	4,697	86	118	151	355	130	124	154	180	189	196	237	361	410	434	2,415	534	552	413	253	115	60	1,927	841
南部		904	30	26	24	80	16	22	43	55	45	40	32	73	94	99	519	102	79	55	36	24	9	305	124
鹿島																									
沼ノ沢		1,096	23	31	48	102	54	35	32	45	43	47	59	88	104	70	577	98	104	109	62	33	11	417	215
真谷地		309	5	4	3	12	5	2	5	11	10	10	12	18	33	36	142	60	59	16	11	8	1	155	36
沼ノ沢合計		1,405	28	35	51	114	59	37	37	56	53	57	71	106	137	106	719	158	163	125	73	41	12	572	251
紅葉山		1,337	28	42	44	114	40	19	50	54	55	73	66	113	121	136	727	147	122	104	74	34	15	496	227
楓		173	2	2	2	6	2	2	5	4	11	2	3	8	7	11	55	45	28	14	19	6		112	39
登川		11	1	1	1	1	1	1	2	3	2	1	1	1	1	8	3								
滝ノ上		170	5	7	6	18	5	5	10	6	7	12	8	12	14	11	90	13	26	7	11	4	1	62	23
紅葉山合計		1,691	35	52	52	139	47	26	65	64	74	87	77	133	142	159	874	208	178	126	105	45	16	678	292
総数		13,001	291	340	391	1,022	389	312	489	559	536	557	641	1,023	1,160	1,153	6,819	1,381	1,395	1,141	739	339	165	5,160	2,384

(出所) 夕張市「平成18年版・夕張市の統計(第9号)」前掲, 21～22ページより作成。

表22-2 夕張市の行政区別・年齢別人口（2）各地域の年齢別人口（構成比，％）

行政区名	地域名	総数	1～4歳	5～9歳	10～14歳	0～14歳計	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	15～64歳計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65歳以上計	うち75歳以上計
本庁	福住																								
	高松																								
	社光	100.0	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	3.8	6.4	2.6	0.0	2.6	5.1	6.4	10.3	9.0	46.2	9.0	10.3	11.5	6.4	3.8	10.3	51.3	32.1
	本町	100.0	1.5	1.5	2.1	5.1	2.3	2.1	1.7	2.6	4.1	2.8	3.8	8.7	11.1	11.7	51.0	10.2	10.7	8.1	8.5	4.7	1.7	43.9	23.0
	昭和	100.0	0.0	0.0	2.4	2.4	3.7	4.9	7.3	3.7	3.7	1.2	7.3	12.2	7.3	4.9	56.1	13.4	8.5	8.5	3.7	3.7	3.7	3.7	41.5
	旭町	100.0	5.3	1.1	2.6	9.0	1.6	3.7	9.0	4.8	5.8	5.8	3.7	12.2	12.7	8.5	67.7	5.8	5.3	5.3	3.2	2.6	1.1	23.3	12.2
	末広	100.0	1.4	1.4	1.2	3.9	0.9	2.2	4.1	2.4	2.3	3.5	3.4	7.7	8.5	8.4	43.6	11.0	13.2	16.0	8.3	3.1	0.9	52.5	28.4
	鹿の谷	100.0	2.9	3.6	3.5	10.0	2.7	1.9	3.5	4.1	4.7	4.9	6.1	7.8	9.5	8.4	53.6	9.9	13.0	7.4	3.7	1.2	1.2	36.4	13.5
	富野	100.0	9.2	5.4	1.5	16.2	0.8	4.6	12.3	5.4	1.5	4.6	4.6	12.3	9.2	6.9	62.3	3.8	1.5	9.2	5.4	0.8	0.8	21.5	16.2
	本庁合計	100.0	2.5	2.2	2.3	7.0	1.8	2.5	4.4	3.4	3.6	3.9	4.6	8.6	9.7	8.9	51.5	9.7	11.1	10.2	6.2	2.7	1.6	41.6	20.7
若菜	常盤	100.0	1.7	5.0	6.2	12.8	5.4	0.8	2.9	5.8	4.1	6.6	9.1	13.6	5.8	7.4	61.6	6.6	7.9	6.2	3.7	0.8	0.4	25.6	11.2
	目吉	100.0	0.5	1.0	4.0	5.5	1.5	1.0	3.5	0.5	2.0	5.5	2.5	1.5	2.5	3.5	24.0	6.5	6.0	15.0	17.5	15.0	10.5	70.5	58.0
	若菜	100.0	1.1	2.2	1.5	4.8	3.7	1.9	3.0	3.3	6.3	2.2	3.7	6.3	10.4	13.4	54.3	12.3	8.6	10.8	6.7	1.5	1.1	40.9	20.1
	平和	100.0	3.5	3.5	3.1	10.2	4.0	2.2	4.0	7.8	4.7	4.4	5.5	5.1	7.1	8.2	53.0	10.4	10.4	9.5	4.0	1.8	0.7	36.8	16.0
	千代田	100.0	3.8	2.8	2.3	8.9	6.8	3.4	5.9	8.9	5.1	3.9	7.1	9.0	8.7	5.8	64.6	4.7	7.2	7.9	5.9	0.6	0.3	26.5	14.7
清水沢	若菜合計	100.0	2.7	3.0	3.0	8.8	4.9	2.3	4.4	6.5	4.7	4.3	6.0	7.5	7.5	7.4	55.6	7.6	8.1	9.2	6.5	2.6	1.6	35.6	19.9
	清水沢	100.0	1.7	2.7	3.0	7.4	2.9	2.4	3.1	3.9	4.5	4.3	5.1	7.0	8.1	9.0	50.1	12.9	13.6	9.2	4.9	1.2	0.6	42.5	15.9
	南清水沢	100.0	2.0	2.2	3.6	7.8	2.6	3.0	3.6	3.8	3.3	3.9	5.0	8.9	9.8	9.7	53.6	8.7	8.6	8.2	6.3	4.5	2.3	38.6	21.3
南部	清水沢合計	100.0	1.8	2.5	3.2	7.6	2.8	2.6	3.3	3.8	4.0	4.2	5.0	7.7	8.7	9.2	51.4	11.4	11.8	8.8	5.4	2.4	1.3	41.0	17.9
	南部	100.0	3.3	2.9	2.7	8.8	1.8	2.4	4.8	6.1	5.0	4.4	3.5	8.1	10.4	11.0	57.4	11.3	8.7	6.1	4.0	2.7	1.0	33.7	13.7
鹿島	鹿島																								
	沼ノ沢	100.0	2.1	2.8	4.4	9.3	4.9	3.2	2.9	4.1	3.9	4.3	5.4	8.0	9.5	6.4	52.6	8.9	9.5	9.9	5.7	3.0	1.0	38.0	19.6
沼ノ沢	真谷地	100.0	1.6	1.3	1.0	3.9	1.6	0.6	1.6	3.6	3.2	3.2	3.9	5.8	10.7	11.7	46.0	19.4	19.1	5.2	3.6	2.6	0.3	50.2	11.7
	沼ノ沢合計	100.0	2.0	2.5	3.6	8.1	4.2	2.6	2.6	4.0	3.8	4.1	5.1	7.5	9.8	7.5	51.2	11.2	11.6	8.9	5.2	2.9	0.9	40.7	17.9
紅葉山	紅葉山	100.0	2.1	3.1	3.3	8.5	3.0	1.4	3.7	4.0	4.1	5.5	4.9	8.5	9.1	10.2	54.4	11.0	9.1	7.8	5.5	2.5	1.1	37.1	17.0
	楓	100.0	1.2	1.2	1.2	3.5	1.2	1.2	2.9	2.3	6.4	1.2	1.7	4.6	4.0	6.4	31.8	26.0	16.2	8.1	11.0	3.5	0.0	64.7	22.5
	登川	100.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	27.3	18.2	9.1	9.1	9.1	0.0	72.7	27.3
	滝ノ上	100.0	2.9	4.1	3.5	10.6	2.9	2.9	5.9	3.5	4.1	7.1	4.7	7.1	8.2	6.5	52.9	7.6	15.3	4.1	6.5	2.4	0.6	36.5	13.5
紅葉山	紅葉山合計	100.0	2.1	3.1	3.1	8.2	2.8	1.5	3.8	3.8	4.4	5.1	4.6	7.9	8.4	9.4	51.7	12.3	10.5	7.5	6.2	2.7	0.9	40.1	17.3
	総数	100.0	2.2	2.6	3.0	7.9	3.0	2.4	3.8	4.3	4.1	4.3	4.9	7.9	8.9	8.9	52.4	10.6	10.7	8.8	5.7	2.6	1.3	39.7	18.3

(出所) 表22-1と同じ。

表22-3 夕張市の行政区別・年齢別人口(3) 各年齢別人口の地域分布状況(構成比, %)

行政区名	地域名	総数	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	15～64計	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	65歳以上計	うち75歳以上計
本庁	福住																							
	高松																							
	社光	0.6	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	1.0	1.0	0.4	0.0	0.4	0.6	0.5	0.7	0.6	0.5	0.6	0.8	0.7	0.9	4.8	0.8	1.0
	本町	3.6	2.4	2.1	2.6	2.3	2.8	3.2	1.6	2.1	3.5	2.3	2.8	4.0	4.5	4.8	3.5	3.6	3.3	5.4	6.5	4.8	4.0	4.5
	昭和	0.6	0.0	0.0	0.5	0.2	0.8	1.3	1.2	0.5	0.6	0.2	0.9	1.0	0.5	0.3	0.7	0.8	0.5	0.6	0.4	0.9	1.8	0.7
	旭町	1.5	3.4	0.6	1.3	1.7	0.8	2.2	3.5	1.6	2.1	2.0	1.1	2.2	2.1	1.4	1.9	0.8	0.7	0.9	0.8	1.5	1.2	0.9
	末広	5.7	3.4	2.9	2.3	2.8	1.8	5.1	6.1	3.2	3.2	4.7	3.9	5.6	5.4	5.4	4.7	5.9	7.0	10.3	8.3	6.8	4.2	7.5
	鹿の谷	5.8	7.6	7.9	6.6	7.3	5.1	4.5	5.3	5.5	6.5	6.6	7.2	5.7	6.1	5.5	5.9	5.4	7.0	4.8	3.8	2.7	5.5	4.2
	富野	1.0	4.1	2.1	0.5	2.1	0.3	1.9	3.3	1.3	0.4	1.1	0.9	1.6	1.0	0.8	1.2	0.4	0.1	1.1	0.9	0.3	0.6	0.5
	本庁合計	18.7	21.0	15.6	14.3	16.6	11.6	19.2	22.1	14.7	16.2	17.2	17.5	20.5	20.3	18.7	18.4	17.2	19.4	21.8	20.3	19.5	23.0	19.6
若菜	常盤	1.9	1.4	3.5	3.8	3.0	3.3	0.6	1.4	2.5	1.9	2.9	3.4	3.2	1.2	1.6	2.2	1.2	1.4	1.3	1.2	0.6	0.6	1.2
	日吉	1.5	0.3	0.6	2.0	1.1	0.8	0.6	1.4	0.2	0.7	2.0	0.8	0.3	0.4	0.6	0.7	0.9	0.9	2.6	4.7	8.8	12.7	2.7
	若菜	2.1	1.0	1.8	1.0	1.3	2.6	1.6	1.6	1.6	3.2	1.1	1.6	1.7	2.4	3.1	2.1	2.4	1.6	2.5	2.4	1.2	1.8	2.1
	平和	3.5	5.5	4.7	3.6	4.5	4.6	3.2	3.7	6.3	3.9	3.6	3.9	2.2	2.8	3.2	3.5	3.4	3.4	3.8	2.4	2.4	1.8	3.2
	千代田	5.5	9.3	5.9	4.1	6.2	12.3	7.7	8.6	11.3	6.7	5.0	7.8	6.3	5.3	3.6	6.7	2.4	3.7	4.9	5.7	1.2	1.2	3.6
	若菜合計	14.4	17.5	16.5	14.6	16.0	23.7	13.8	16.8	21.8	16.4	14.5	17.5	13.7	12.2	12.1	15.3	10.3	10.9	15.2	16.5	14.2	18.2	12.9
	清水沢	22.6	17.5	23.5	22.3	21.3	21.6	22.8	18.6	20.4	24.4	23.0	23.2	20.0	20.5	22.9	21.6	27.6	28.7	23.7	19.4	10.6	11.5	24.2
	南清水沢	13.5	12.0	11.2	16.4	13.4	11.8	17.0	12.9	11.8	10.8	12.2	13.7	15.2	14.8	14.7	13.8	11.1	10.8	12.5	14.9	23.3	24.8	13.1
	清水沢合計	36.1	29.6	34.7	38.6	34.7	33.4	39.7	31.5	32.2	35.3	35.2	37.0	35.3	35.3	37.6	35.4	38.7	39.6	36.2	34.2	33.9	36.4	37.3
	南部	7.0	10.3	7.6	6.1	7.8	4.1	7.1	8.8	9.8	8.4	7.2	5.0	7.1	8.1	8.6	7.6	7.4	5.7	4.8	4.9	7.1	5.5	5.9
鹿島																								
沼ノ沢	沼ノ沢	8.4	7.9	9.1	12.3	10.0	13.9	11.2	6.5	8.1	8.0	8.4	9.2	8.6	9.0	6.1	8.5	7.1	7.5	9.6	8.4	9.7	6.7	8.1
	真谷地	2.4	1.7	1.2	0.8	1.2	1.3	0.6	1.0	2.0	1.9	1.8	1.9	1.8	2.8	3.1	2.1	4.3	4.2	1.4	1.5	2.4	0.6	3.0
	沼ノ沢合計	10.8	9.6	10.3	13.0	11.2	15.2	11.9	7.6	10.0	9.9	10.2	11.1	10.4	11.8	9.2	10.5	11.4	11.7	11.0	9.9	12.1	7.3	11.1
	紅葉山	10.3	9.6	12.4	11.3	11.2	10.3	6.1	10.2	9.7	10.3	13.1	10.3	11.0	10.4	11.8	10.7	10.6	8.7	9.1	10.0	10.0	9.1	9.6
	楓	1.3	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5	0.6	1.0	0.7	2.1	0.4	0.5	0.8	0.6	1.0	0.8	3.3	2.0	1.2	2.6	1.8	0.0	2.2
紅葉山	登川	0.1	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.0	0.2	0.1
	滝ノ上	1.3	1.7	2.1	1.5	1.8	1.3	1.6	2.0	1.1	1.3	2.2	1.2	1.2	1.0	1.3	0.9	1.9	0.6	1.5	1.2	0.6	1.2	
	紅葉山合計	13.0	12.0	15.3	13.3	13.6	12.1	8.3	13.3	11.4	13.8	15.6	12.0	13.0	12.2	13.8	12.8	15.1	12.8	11.0	14.2	13.3	9.7	13.1
総数																								
		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) 表22-1と同じ。